

様式第2号（第5条関係）

令和2年9月14日

受 講 報 告 書

栗山町議会議長 鵜 川 和 彦 様

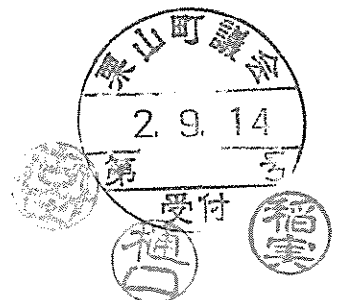
栗山町議会議員 齊 藤 義 崇



このたび、下記のとおり受講いたしましたので報告します。

記

- 1 研 修 日 令和2年8月26日（水）
- 2 目 的 USBメモリによるセミナー受講
- 3 研 修 内 容 講師：足立 泰美氏
「地方財政歳入、地方財政歳出」
「教育予算の基礎、子どもの貧困問題」
- 4 関 係 書 類 別紙のとおり



過去の

人気セミナーの 動画データとレジュメ 限定販売

交通費が
もったいない

あのセミナーを
受けそびれて
なくなって
しまった

次の議会で
質問したいのに
タイミングが
合わない

こんなお声にお答えして

USBメモリにいれて
郵送いたします!

ご希望の講座のチェックボックスへ ☒ チェックください。



いせき ともとし
伊関 友伸
城西大学経営学部
マネジメント総合学科
教授



人口減少社会における
持続可能な医療、介護を考える



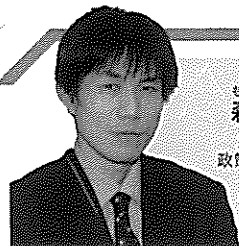
本格的少子高齢社会における
社会保障政策を考える



人口減少・地域消滅の
時代における地方議会改革



本格的少子高齢社会における
介護と健康政策



もり ひろゆき
森 裕之
立命館大学
政策科学部教授、
博士
(政策科学)



あなたの自治体の財政を確認①

- ・ 決算カードを見られるようになる
- ・ 決算カードを比較したら財政が分かる
- ・ 歳入について詳しく解説します



あなたの自治体の財政を確認②

- ・ 歳出について詳しく解説します
- ・ 決算カードを使えるようになる
- ・ 財政の知識を政策に活かす



あだち よしみ
足立 泰美
甲南大学経済学部
准教授、博士
(医学、
国際公共政策)



地方財政 歳入

- ・ 地方交付税のしくみ
- ・ 臨時財政対策債
- ・ 経常収支比率～特定財源・一般財源



地方財政 歳出

- ・ 単独事業と補助事業
- ・ 社会保障費と自治体財政
- ・ 公債費の考え方～プライマリーバランス



教育予算の基礎

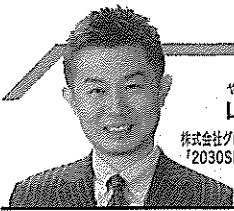
- ・ 都道府県と市町村の役割
- ・ ICT教育について
- ・ 少人数教育と自治体財政



子どもの貧困問題

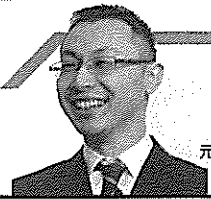
- ・ 地方自治体での子どもの貧困対策
- ・ 子どもの貧困対策に関する大綱の解説
- ・ 子どもの貧困に関する指標

ご希望の講座のチェックボックスへ ☒ チェックください。



やまなか としき
山中 俊之
株式会社グローバルダイナミクス代表取締役
「2030SDGs」認定ファシリテーター
国際教養コーチ

☐ 人事評価と給与への反映



くぼた たかし
久保田 崇
立命館大学教授
元・陸前高田市 副市長

☐ 陸前高田市における復興の現状と課題

☐ 教訓を活かした防災まちづくり



みなみ まなぶ
南 学
東洋大学経済学研究科
公民連携専攻客員教授

☐ 財政問題としての公共施設マネジメント

☐ 公民連携と指定管理者制度

☐ 公会計改革で変わる議会審議



かわもと たつし
川本 達志
元・廿日市市副市長

☐ あなたの知らない議会のチカラ
・執行部が怖い議会の権限
・市長、副市長、職員とのつきあい方

☐ 大学の先生ではわからない実務的な質問の仕方
・課題認識と共有の重要性
・どのように質問を組み立てると役所に響くのか?

☐ 私がうなった質問はこれだ
・よい質問の絶対要件3つ
・検討しますへの切り返し方

☐ 元副市長が考える財政関連質問のポイント
・地方交付税と臨時財政対策債のおさらい
・経常収支比率と一般財源の考え方

動画・資料の内容は過去のもので、最新の情報とは異なる場合がございますが、ご了承ください。

お申込みは ☐ FAX または ☒ メールにて

メール申込み **mail@chihogiken.jp**

FAX申込み 下記申込書に明記の上 **06-7878-6308** 宛にお送りください

お名前	(フリガナ) 栗山 義孝	貴議会名	栗山町議会
電話番号	(0123) 75-2345	FAX番号	(0123) 75-2345
郵送先住所	〒(068-0355) 北海道千歳市栗山町字御園786番地1 ※ご指定が無い場合は議会事務局様宛で郵送させていただきます。		
E-mail	yoshi.11301209@gmail.com		
申込み合計	15,000円 × 4 講座 = 60,000円		

料 金 1講座分 15,000円

お問い合わせ

地方議員研究会
〒532-0004
大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639

TEL 06-7878-6297
FAX 06-7878-6308
メール mail@chihogiken.jp

日 時	令和2年8月26日 10:00~17:00
視 察 先	USBメモリによるセミナー受講
調査事項	「教育予算の基礎」 「子どもの貧困問題」 「地方財政（歳入）」 「地方財政（歳出）」
対 応 者	足立泰美氏（甲南大学経済学部准教授）
1. 視察目的	栗山町の教育問題と財政課題の解決に役立てるため、本講座を受講した。なお、コロナ過により、映像と資料を購入して、講義を受けた。
2. 視察内容	【教育予算の基礎】 1 教育支出の国際比較 2 教育投資の負担軽減策 3 教育のICT化 4 ICT教育環境の構築プロセス 【子どもの貧困問題】 1 貧困の定義 2 社会保障制度・原理 3 学習支援ボランティア事業 4 家庭の事情と学力 【地方財政（歳入）】 1 臨時財政対策 2 地方交付税算定基礎 3 地域格差 4 政府間財政移転 5 財政指標の見方と傾向 【地方財政（歳入）】 1 公共施設の適正管理 2 プライマリーバランス 3 目的別・性質別歳出 4 公共施設最適化事業 講義内容は栗山町が抱える課題について論点整理と論拠がはっきりと理解できる内容であった。

3. 主な質疑	映像と資料による自主的な講義受講のため、質疑は行えていない。
4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	1 教育予算の基礎 日本の教育支出（対GDP比）が低いことに驚いた。補助・個人補助を合わせて3.8%で、OECD加盟国（31カ国）で最低である。家族関係社会支出も同様の比較から低く、経済規模の割に教育に割いている予算は少ない。講義はこのように前半にデータ整理がされ、負担軽減策の解説と進んだ。 教育に関する政策立案の参考となった。特に教育のICT化については詳細に説明があり、福島県相馬郡新地町の東日本大震災過での事例や、京都府京都市北区の清明高校のiPadの活用事例は、栗山町でも進められるGIGAスクールについての参考となるものばかりであった。 2 子どもの貧困問題 日本に子どもの貧困がないと思っていたが、貧困の定義の説明があり、ただ衣食住が満たされないことだけが貧困ということではないことが冒頭の説明で理解できた。相対的貧困で所得格差や世帯所得によって貧困率が算定され、「国民生活基礎調査」では17歳以下の子どもがいる世帯では、13.9%が日本でも貧困であることが示された。 これに併せて社会保障制度、その原理が説明され、扶助政策の重要性が再認識できた。学習支援ボランティア事業など、子どもの貧困に対する支援政策もあり、地方でも考えていなければならない課題と思った。家庭の事業と学力にも差（所得が大きいほど学力が高い傾向）が大きいこともわかり、栗山町の扶助政策を考える視点が広がった。 3 地方財政（歳入） 前半は租税、交付税、臨在債の概要と課題が解説された。次にその仕組み、最後にデータを検証しながら、財政指標の見方や近年の傾向の解説となる。 講義の資料以外に普段の活動で調査した、栗山町のデータを時折見比べながら解説を受けたが、地方財政の基礎が身についた。自治用語辞典を引きながら、財政指標の用語や計算式についてもわかりやすく、今後の決算特別委員会で大いに役立てる講義であった。

4 地方財政（歳出）

前半は自治体の負担が解消されない、公共施設の適正管理、まち・ひと・しごと創生事業が解説された。次に財源の説明があり、国民租税（約94兆円）の約6割が国税、約4割が地方税、歳出ベースでは、4割は国が支出、地方が6割支出（地方交付税や国庫支出金等が支出される）しているという。このため地方では簡単に言うと負担と受益の関係の認識が希薄化し、地方の歳出増が抑止しにくい状態であると指摘している。

また、プライマリー・バランスや目的・性質別歳出の基礎と都道府県・市町村データが示され、知識の習得ができた。

歳出を抑制するためには公共施設の最適化を進めることが、地方では特に重要であると説明があり、その事業の説明や石川賢七尾市の中学校の体育館の具体的事例も挙がり、栗山町の公共施設総合計画と照ら併せて見ると、より理解が深まった。

4講義とも今後の議員活動に必要不可欠な内容で、講義が参考となったので、一般質問や委員会審査の場面で役立てていきたい。

5 映像と資料による講座受講の感想・所感

私が当初に思っていたよりも、効果的な学習ができた。コロナ過に限らず、このような形式の講義は今後も議会議員の資質向上のため取り入れてもよいと思う。主な利点と欠点を整理した。

◎利点

- ① 映像は一時停止・リピートでき、休憩も自由で、理解度を高めるための反復学習が可能である。
- ② 栗山町の資料、他の参考書を開きながら学習することで、単語の理解度が上がり、我が町の課題の整理や、その解決策を探ることが十分にできる。
- ③ 職場や家庭で、自分のペースで講座を受けることができる。

×欠点×

- ① 質疑ができない。
- ② 過去の講座の録画のため、音声聞き取りにくい。
(PCに音声と別にヘッドフォンで聞いた)
- ③ 臨場感がないので、学習目的が明快でない人や、興味のない課題の場合は、ライブよりも学習効果は上げにくいと思われる。

